

たはら TAHARA History Inquiry Club 歴史探訪 クラブ 其の54

海での拾いもの

海に行くときさまざまなものを見かけます。貝殻、流木、海藻、魚、時にはクジラ、イルカ、ウミガメなどの海獣類の亡骸。もちろんゴミも。毎日、海に行く方は、季節や天候、時間、潮により漂着するものが変わることをご存知だと思います。

ここで、時間をはるか昔の3000年前の縄文時代にまでさかのぼりましょう。

渥美半島の貝塚では、不思議なものが見つかります。遠く離れた表浜に生息する貝、いったいどのように



表浜に打ち上げられた漂着物

捕獲したのだろう、と考えてしまつウミガメ・クジラなどの骨。貝だけだったら、集落のすぐ近くに広がる干潟に豊富に生息していますから、わざわざ遠い所に捕りに行く必要がありません。大型の海獣についても、有用なものには違いませんが、その目的を持ってわざわざ労力を費やし、危険を冒してまで捕獲したのでしょうか。

恐らく、当時の人々は、海獣などは海岸に打ち上げられたもの、もしくは浅瀬に迷い込み弱ったものを捕獲していたのでしょう。ウミガメは産卵で上陸したものを捕獲したかもしれません。彼らは、さまざまな条件によって流れ着く有用なもの知識を経験的に持っており、その時々

に拾いに行っていたのでしよう。特に、表浜には内湾に比べさまざまなものが流れ着きます。

表浜では、貝の腕輪の素材（ベンケイガイ・サトウガイ）を拾うことができます。これらの貝は、人間が素潜りできないような深い海に生息しているため、食べるためではなく、死貝を拾い、別の活用をされていました。その一つが腕輪です。

ベンケイガイはその名が示すとおり、弁慶のような強さを備えたアメ色の色彩を持つ貝です。サトウガイは、肋と呼ばれる筋目と、しっとりした貝の白い質感が特徴です。これら貝製腕輪は、渥美半島の特産品として、各地に交換品として配られた



表浜で拾ったベンケイガイ・サトウガイ

ものと考えられています。

海で拾った貝には有利な点があります。貝の縁部分が波に削られることにより質感が高まり、加工の間を省くことができたことです。実は、最近まで貝製腕輪が波によって整えられた形、波によって生まれた美しさを利用しているところまで思いつきませんでした。それは、実際に海岸に落ちている貝を見て、また実験で腕輪を作ってみて初めてわかったことです。

ほかに、チョウセンハマグリ（ハマグリ）の殻が自然に割れ、波で磨かれ偶然にできたものをヘラと利用している道具も貝塚から見つかっています。

これら海岸に打ち上げられた貝が縄文人にいかにか活用されたかは、千葉県あしはらの忍澤成視なるみさんの調査によって明らかになりました。（増山）生涯学習課 ☎ 23局 3531



複製品の腕輪（左からサトウガイ、ベンケイガイ）